

一 異念無く靈山浄土へ参るべき事

仰せに云はく、異念とは不信の事なり。若し我が心なりとも不信の心出来せば^{たちま}忽ちに信心に住すべし。所詮不信の心をば師となすべからず。信心の心を師匠とすべし。淨心信敬に法華經を修行し奉るべきなり。されば「能持是經、能説此經」と説きて能の字を説かせ玉へり。靈山こゝにあり。四土一念皆常寂光とは是なり云云。